



JASAER



*** マルコーニの切手 ***

JASAER 荒川泰藏

1. マルコーニの令嬢エレットラ・マルコーニさんの記事をCQ誌4月号で発見。

CQ ham radio誌2018年4月号で、「マルコーニ家訪問」の記事が目につきました。それはI0KQB ジョヴァンニ・フランチャさんがマルコーニの令嬢、エレットラ・マルコーニ (Eletrra Marconi) さんを訪ね、インタビューを行った記事でしたが、青いスーツ姿のエレットラさんの写真を懐かしく拝見しました(写真1の左)。

このエレットラさんには、23年前の1995年9月にロンドンで開かれた、IEE (The Institute of Electrical Engineers) 主催の無線100年を記念したコンファレンスで、お目にかかったことがあったからです(写真1の中央、及び写真2)。

そして同時に思い出したのが、米国のカナンデグアで開かれた、AWA (Antique Wireless Association) のコンファレンスで講演された時にお会いしたもうお一人の令嬢、ジオイア・マルコーニ (Gioia Marconi) さんで、これも当時のCQ誌に記事として投稿していました(写真1の右、及び写真3)。

写真1 (左) CQ誌2018年4月号の記事。(中央) CQ誌1995年6月& 12月号の記事。(右) CQ誌1985年1月号の記事。

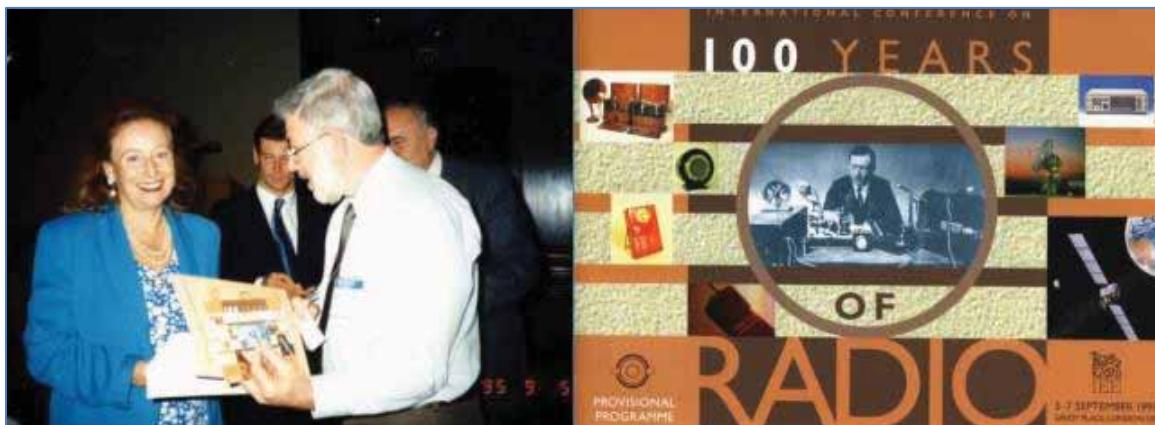


写真2 (左) ロンドンにてエレットラ・マルコーニさん (1995年)。(右) 無線100年記念コンファレンスのプログラム表紙。



写真3 (左) カンデグアにて講演をされる ジオイア・マルコーニさん (1985年)。

(右) HB9RS, マックス (Dr. Max C. deHenseler)夫妻に囲まれて、
彼の作品「マルコーニの足跡」の展示を見学するジオイア・マルコーニさん (1985年)。

2. 英国：無線100年記念 マルコーニ切手のマキシマムカード2種 (1995年9月5日 発行)

さて本題に入って、先ず英国で1985年に発行された無線100年を記念した2種のマルコーニ切手を紹介します。この切手は、郵便切手を使った近代郵便制度を作ったローランド・ヒル (Sir Rowland Hill) の生誕200年を記念した2種の切手とセットで同時に発行されましたが、発行日は上述の無線100年記念コンファレンスの開催日に合わせて発行されました。

筆者は当時英国に駐在していて、この切手発行に合わせて、RSGBの機関誌 RadCom 1995年9月号に「アマチュア無線の切手 (Amateur Radio on Postage Stamps)」と題した特集記事を書かせて頂きましたので、忘れられない切手の一つになりました。ここでは、その切手を貼って初日消印を押したマキシマムカード2種を紹介します(写真4及び5)。



写真4 無線100年記念41p切手のマキシマムカードの表と裏。裏にSwindon郵便局の初日消印。



写真5 無線100年記念60p切手のマキシマムカードの表と裏。裏にAlexandra Palace郵便局の初日消印。

3. 英国：無線100年記念 マルコニー切手2種貼り実逓（1995年9月）

前述の無線100年記念シンポジウムを主催したIEE (The Institute of Electrical Engineers) の封筒に、1995年9月5日に発行されたマルコニーの切手を貼って実際に送られた封筒です。消印の日付は、1995年9月まで鮮明ですが、日にちは不鮮明で読み取りが困難です。これはコンファレンスに参加した筆者が、主催者 IEE の封筒を貰って自分で作る実逓は面白くないのですが、この切手が初期に使用されたエビデンスになるものです)

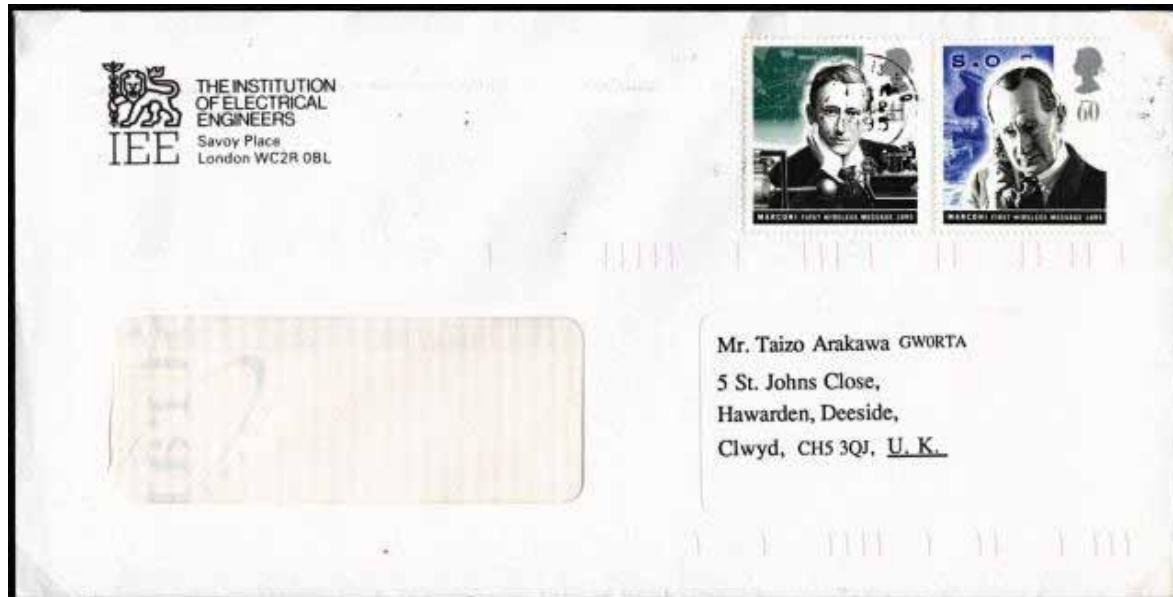


写真6 IEE の封筒での、無線100年記念切手2種貼り実逓、1995年9月の消印。

4. 英国：無線100年記念 マルコニー切手の初日カバー（Potters Bar 郵便局 1995年9月5日）

無線100年記念のマルコニー切手2種を貼り、RSGBのロゴを図案にした、Potters Bar 郵便局の初日消印で押した初日カバー(FDC)です(写真7)。当時 RSGBの本部は ロンドン郊外の Potters Bar にありました。

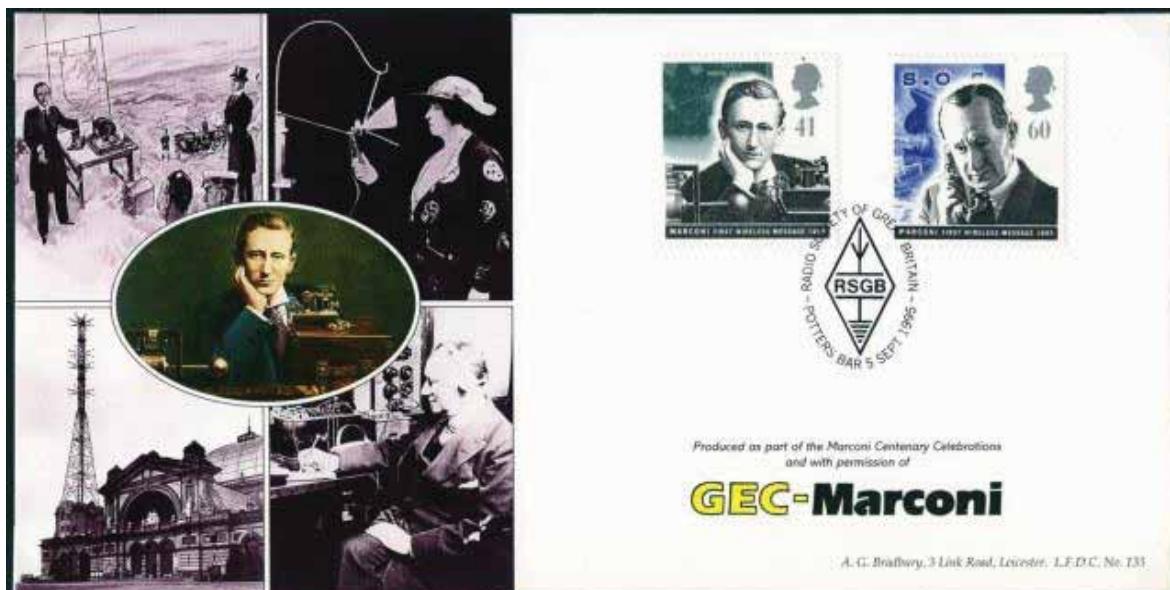


写真7 無線100年記念 マルコニー切手2種を貼り、RSGB のロゴを図案にした Potters Bar 郵便局の初日消印を押したFDC。

次号に続く

J A3AER 荒川さん



JA3AER



* * * マルコーニの切手 (その2) * * *

JA3AER 荒川泰藏



1. 3B7AとのQSOに失敗

青木さんがMLで教えてくれた、狙い目の24MHz, SSBを4月13日の午後2時ごろからワッチし、強く聞こえた瞬間にコールしたところ「AER」と返って来たのでRSレポートを送ってQSO出来たと安心していたのですが、どうも空振りだった様で残念でした。皆さんが多くのバンド、モードでのマス埋めを競っておられる中、努力が足りずQSO出来ませんでしたHi。

2. RSGBの機関紙「RadCom」の「Amateur Radio on Postage Stamps」の記事

先月号で紹介したRSGBの機関紙「RadCom」の1995年9月号に掲載された記事を紹介します。表紙は私のコレクションで飾られ、記事は4ページを割いてくれました(写真1)。もう23年も前のことですが、誰がRSGBに紹介してくれたのかよく思い出せないですが、IOTA Directoryの日本語版を発行する為、その翻訳に忙しくしていた時期ですので、IOTAでアクティブだったG3PJT, Steve Telenius-Loweさんと、そのXYL, Eveさん (2E1FHJ) だったのでと思ってます。Eveさんは当時RSGBの職員でIOTAデスクを担当しておられました。よく覚えているのはこの記事の打ち合わせのため、ロンドン郊外のPotters BarにあるRSGB本部に出かけ、RsdComの編集長G3XDV, Mike Dennisonに会って、編集部の編集作業を見学させて頂いた事です。DTPを使って編集作業をしていた大きなカラーモニターが印象に残っています。

記事は筆者の寄稿として編集頂きましたが、無線100年記念のマルコーニ切手が発行される直前でしたので、その切手の写真を含む切手の詳細資料や、GEC-Marconi社の写真提供を受けて作られた初日カバー用の封筒の写真やその説明資料などは、編集部が独自に入手して編集され、囲み記事として掲載されました。先月号の最後の写真7で紹介した初日カバーに押されたRSGBのロゴ入りのPotters Bar郵便局の消印は、その時既にRSGBから提供を受けて作られていたものと推察しています。Royal Mail (英国の郵便局) が、マルコーニとアマチュア無線を結び付けてRSGBに声を掛けてきたものと思われますが、それを記事にして掲載する為アマチュア無線切手の蒐集家を探していたのかも知れません。当時私が英国に駐在していたのもラッキーでした。この記事のお陰で、多くのアマチュア無線切手蒐集家と知り合う機会を得ました。



写真1 (左) RadCom 1995年9月号の表紙を飾った、筆者のアマチュア無線切手コレクション。この写真はRSGBが1998年に発行した写真集「Amateur Radio : The First 100 Years」にも掲載された。**(中央)** 特集記事の1頁目。下にマルコーニの切手が紹介されている。**(右)** 特集記事の最終頁。下に初日カバー用の封筒が紹介されていて、RSGBのロゴ入りの消印は500部限定である。

3. 英国：無線100年記念 マルコニーの署名デザインの消印 初日カバー(BBCのニュースキャスター署名入り)

無線100年を記念した2種のマルコニー切手は、郵便切手を使った近代郵便制度を作ったローランド・ヒル (Sir Rowland Hill) の生誕200年を記念した2種の切手とセットで同時に発行されましたので、それを合わせた4種の切手を貼った初日カバーが多く作られています。その中でもここに紹介するのは、BBCテレビ放送のニュースキャスターであるSue Lawleyの署名入りのカバーで、110枚限定で作られた珍しいものです(写真2)。消印はマルコニーの署名をデザインしたEssexのChelmsford郵便局の消印です。Chelmsfordはマルコニー社の世界で初めてのラジオ工場が作られた町です。

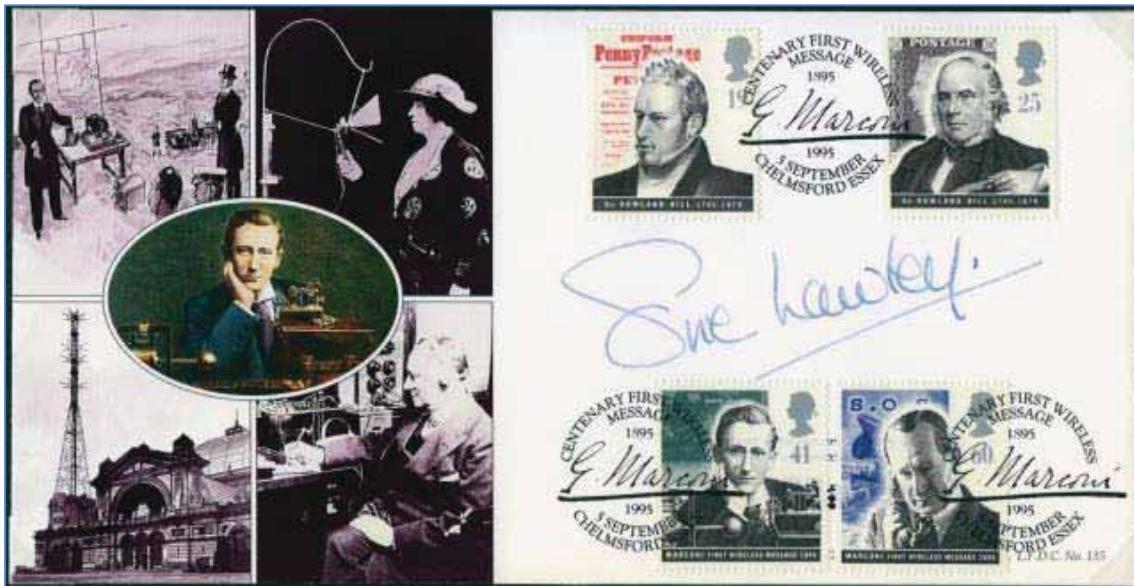


写真2 ローランド・ヒル生誕200年記念と、無線100年記念切手を貼った初日カバー。マルコニーの署名をデザインした消印。

4. Royal Mail (郵便局) の記念切手発行案内書と、記念切手セットのフォルダー内部の説明

前述の4種の切手はCommunication (通信) という括りで同時に発行されました。郵便局の発行案内書や、切手セットのフォルダーにある説明にそれを見ることが出来ます(写真3)。

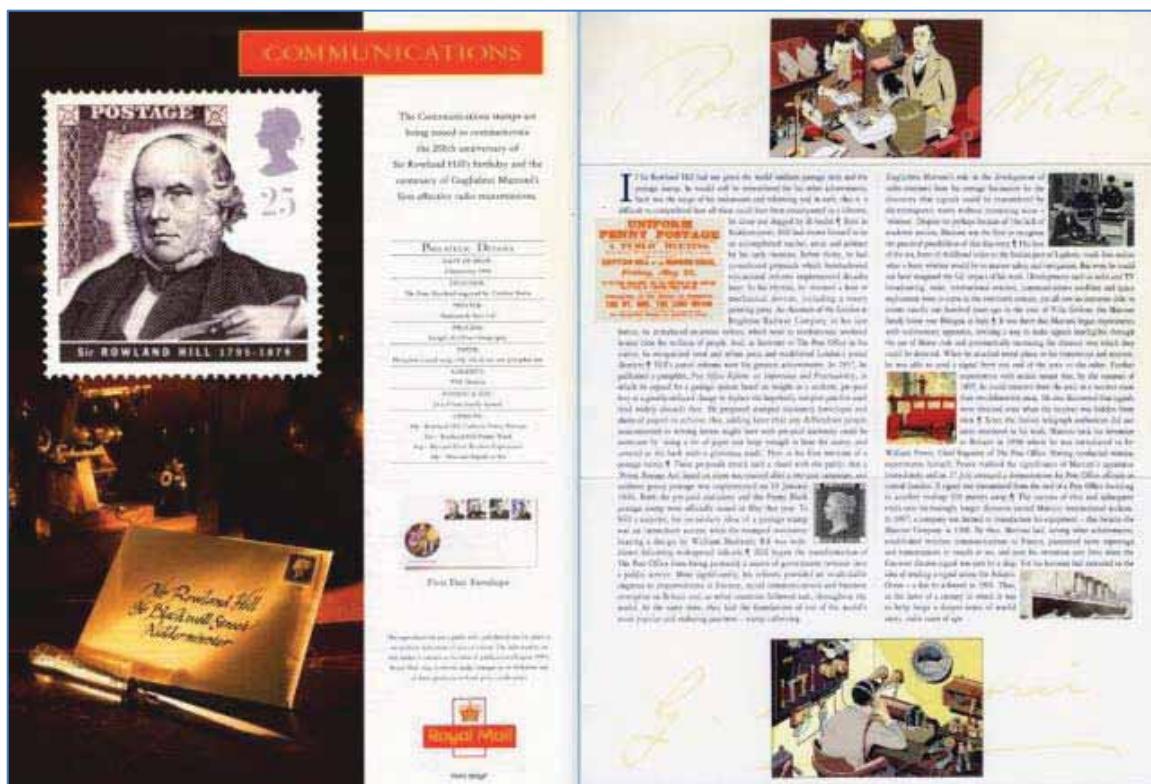


写真3. (左) 郵便局の発行案内書。(右) 切手セットのフォルダーの内部の説明。

5. 英国：無線100年記念 テレビ放送送信アンテナデザインの消印 Royal Mail初日カバー

これも4種の切手を貼った初日カバーですが、カバー(封筒)はRoyal Mailの案内書にあったもので、いわゆる官製初日カバーと言ったところでしょうか。この消印はテレビ放送の送信アンテナをデザインしたAlexandra Palace郵便局の消印です。アレキサン德拉・パレスはロンドン郊外にあり、1936年11月2日にBBCが世界で初めてのTV放送サービスを開始した場所です。(写真4)



写真4 ローランド・ヒル生誕200年記念と、無線100年記念切手を貼った初日カバー。TV送信アンテナをデザインした消印。

6. 英国：テレビ放送50年記念消印と、無線100年記念切手初日消印の複合カバー

TV放送50年を記念した1986年11月2日のAlexandra Palace郵便局の記念消印のカバーに、マルコニーの切手を貼って、TV送信アンテナをデザインした同郵便局の1995年9月5日の初日印を押した、珍しい複合カバーです(写真5)。



写真5 テレビ放送50年記念消印と、無線100年記念切手初日の複合カバー。TV送信アンテナをデザインした消印。

次号に続く



JASAER



* * * マルコーニの切手 (その3) * * *

JASAER 荒川泰藏

1. マルコーニの切手を使った郵趣作品

前回までは1995年に英国で発行されたマルコーニ切手を紹介しましたが、それらを含めた作品リーフを紹介します(写真1)。左側は「アマチュア無線の世界」の中の1リーフ、右側は「電信(テレグラフTelegraph)」の中の1リーフです。これらはNDXAが協力したJARL奈良県支部主催のCW講習会々場で、今年と昨年に紹介させて頂いた一部です。

<p>アマチュア無線を可能にした先駆者達</p> <p>(伊) マルコーニ (1874-1937)</p> <p>藝術家グリエルモ・マルコーニ (Guglielmo Marconi) は、イタリアで生まれ、父はボローニャの銀行家、母はアイルランドの富豪の出で、1889年の夏一家はアルプスで避暑をしていました。そこで14歳のグリエルモ少年は、科学雑誌でヘルツが電磁波の存在を証明したという記事を読み、電線が無くても通信ができるのではないかと考えました。彼は家庭教師役のボローニア大学ケーテ教授の助けを得ながら電波発信装置と受信機の製作に没頭し、1895年21歳の時に実験を成功させました。翌年英國に渡り、1897年に無線通信の特許を取得しました。(ウエブ世界史の窓)他を参照)</p> <p>セルビア・モンテネグロ 2004.8.3 イタリア 1974.4.24 チニスコロ・ハイア 1959.12.7</p> <p>ボルジカ・ハイ・電信局100年記念 マルコーニ生誕100年記念 電話とラジオ分野の発明</p> <p>英國 1995.9.5 無線100年記念・通信の先駆者・マルコーニ MC</p>	<p>マルコーニの無線通信</p> <p>イタリアの発明家グリエルモ・マルコーニ (Guglielmo Marconi) 1874-1937は、イタリアの貴族の家に生まれた。父はボローニャの銀行家、母はアイルランドの富豪の出で、1889年の夏一家はアルプスで避暑をしていました。そこで14歳のグリエルモ少年は、また科学雑誌に載っていたヘルツが電磁波の存在を証明したという記事を読み、電線が無くても通信ができるのではないかと考えました。彼は家庭教師役のボローニア大学ケーテ教授の助けを得ながら電波発信装置と受信機の製作に没頭し、1895年21歳の時に実験を成功させた。翌年英國に渡り、1897年に無線通信の特許を取得した。両親の出資で会社を作り、1901年27歳の時に大西洋横断無線通信を成功させた。(ウエブ世界史の窓)他を参照)</p> <p>イタリア 1995.8.8 無線通信100年記念 無線通信100年記念</p> <p>英國 1995.8.5 通信の先駆者・無線通信100年記念マチシムカード</p>
---	--

写真1 (左) 「アマチュア無線の世界」の中の1リーフ。(右) 「電信(テレグラフTelegraph)」の中の1リーフ。

2. イタリア：マルコーニ生誕100年記念 マルコーニ切手2種とそのFDC (1974年4月24日発行)

今回は、マルコーニの母国イタリアで発行されたマルコーニの切手やマテリアルを中心に紹介します。先ず1974年に発行された生誕100年記念切手2種です(写真2)。彼はイタリア王国ボローニヤで1874年4月25日に生まれています。



写真2 マルコーニ生誕100年記念切手2種とその初日カバー(FDC)

3. イタリア：無線100年記念 マルコーニ切手2種 (1995年6月8日発行)

1995年に発行された無線100年記念切手2種の内、750リラ切手には、Villa Griffoneと呼ばれるマルコーニ博物館が描かれています。850リラ切手はマルコーニのお馴染みのポーズが描かれています。この図案は後に紹介する、バチカン、サンマリノ、アイルランド、ドイツなどの切手にも使用されています(写真3)。ついでに、この年にイタリアのアマチュア無線連盟ARIが発行したマルコーニ・アワードを紹介します。残念ながらこれを獲得したルールは覚えておりません(写真4)。



写真3 無線100年記念切手2種。



写真4 イタリアのアマチュア無線連盟ARIが発行したマルコーニ・アワード。

4. イタリア：マルコーニが描かれた紙幣やコインとテレfonカード。

切手だけでなく紙幣やコイン、それにテレfonカードにもマルコーニが描かれたものがありますので紹介します(写真5 & 6)。



写真5 マルコーニが描かれた2000リラ紙幣の表と裏。



写真6 (左) マルコーニが描かれたテレfonカード。(右) マルコーニが描かれた100リラコインの表と裏。

尚、これらの紙幣やコイン、テレfonカードなどは、郵便切手ではありませんが、「テーマティク郵趣」の分野では、作品の中に切手と共に、マテリアルとして適度に使用しても良いことになっています。

5. バチカン：無線100年記念 マルコーニ切手2種（1995年6月8日発行）

バチカンでもイタリアと同時に無線100年記念切手2種が発行されました。850リラ切手はイタリアの切手と同様、マルコーニのお馴染みのポーズが描かれています。1000リラ切手はバチカン放送局のマイクを持つローマ法王が描かれています(写真7)。



写真7 無線100年記念切手2種。

6. サンマリノ：無線100年記念 マルコーニ切手2種（1995年6月8日発行）

サンマリノでもイタリアと同時に無線100年記念切手2種が発行されました。2種の切手は連刷で、いずれも850リラ切手ですが、左側はラジオ受信機のダイアルをデザインしたもの、右側はイタリアやバチカンと同様、マルコーニのお馴染みのポーズが描かれています。左右のタブに図案化したループアンテナが描かれています(写真8)。



写真8 無線100年記念切手2種。

次回は、今回のイタリア、バチカン及びサンマリノのマルコーニ切手の図案と同じで、同じ日に発行されたアイルランドとドイツの切手を、エピソードを交えて紹介します。アイルランドはマルコーニの母親の母国です。



JASAER



*** マルコーニの切手 (その4) ***

JASAER 荒川泰蔵



1. カリブ海を旅行中の眞田さんご夫妻からの絵葉書

珍しい国々/地域からの絵葉書です。JJ3CIG、JP3AYQ眞田さんご夫妻がカリブ海旅行を楽しんでいた様子がタイムラグをもって伝わります。いずれも帰国されてからの到着で、物流は進歩しても離島からの郵便物は時間がかかりますね(写真1~3)。

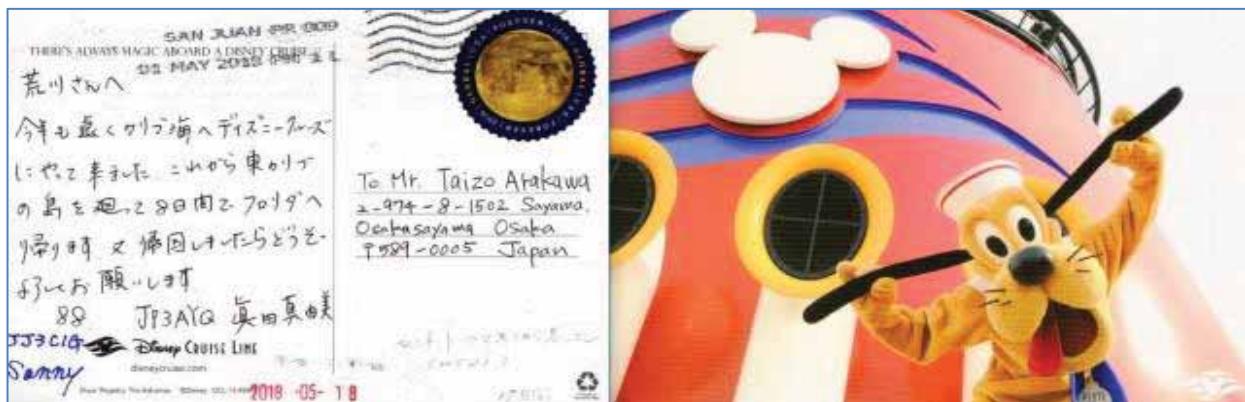


写真1 米国の切手で、米領バージン諸島のセント・トマス島から差し出されたが、プエルト・リコのサン・ファン2018.5.1の消印。カリブ海の米領では米国の切手がそのまま使われていることがわかる。2018.5.18着。到着まで17日間。

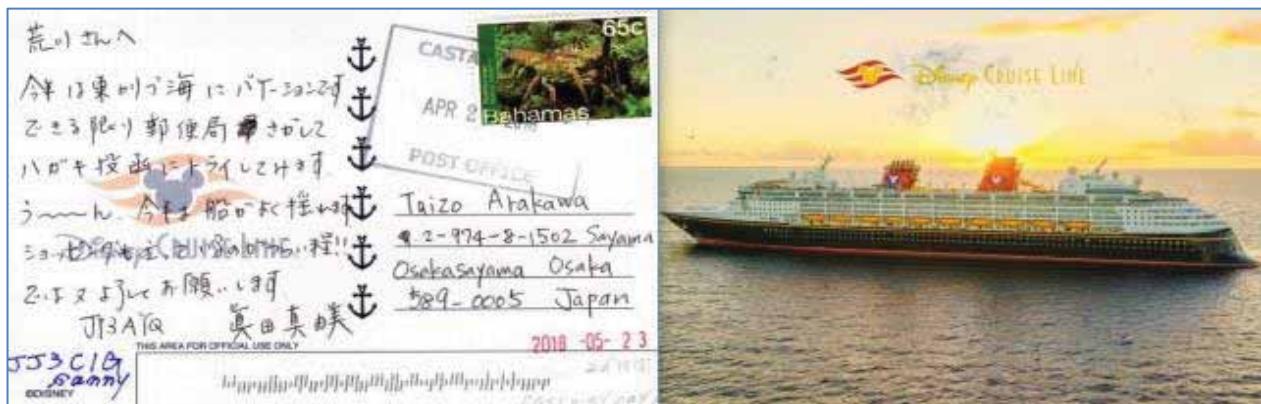


写真2 バハマの切手で、バハマの離島キャスタウェイ・ケイ2018.4.27の消印。2018.5.23着。到着まで26日間。

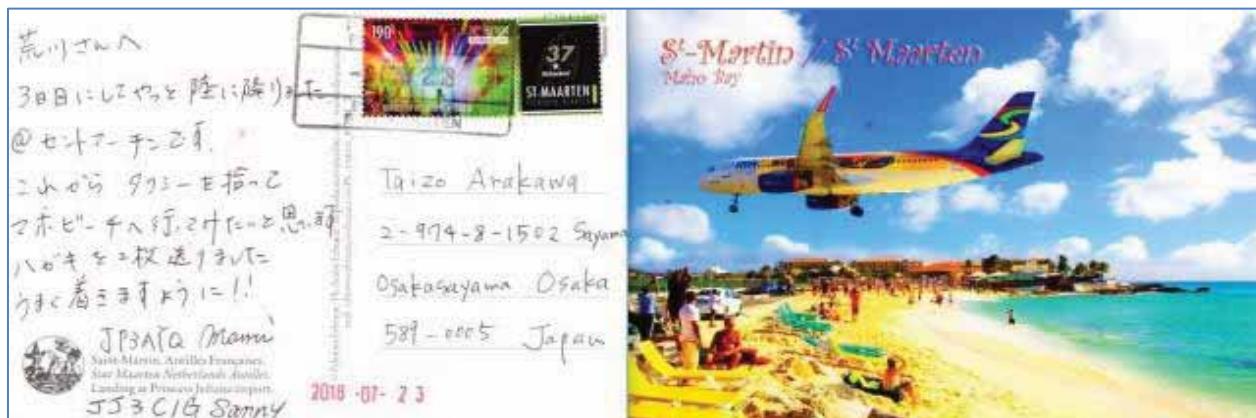


写真3 シント・マールテン(セント・マーチン)の切手で、2018.5.9の消印(郵便局名不詳)。2018.6.23着。到着まで45日間。

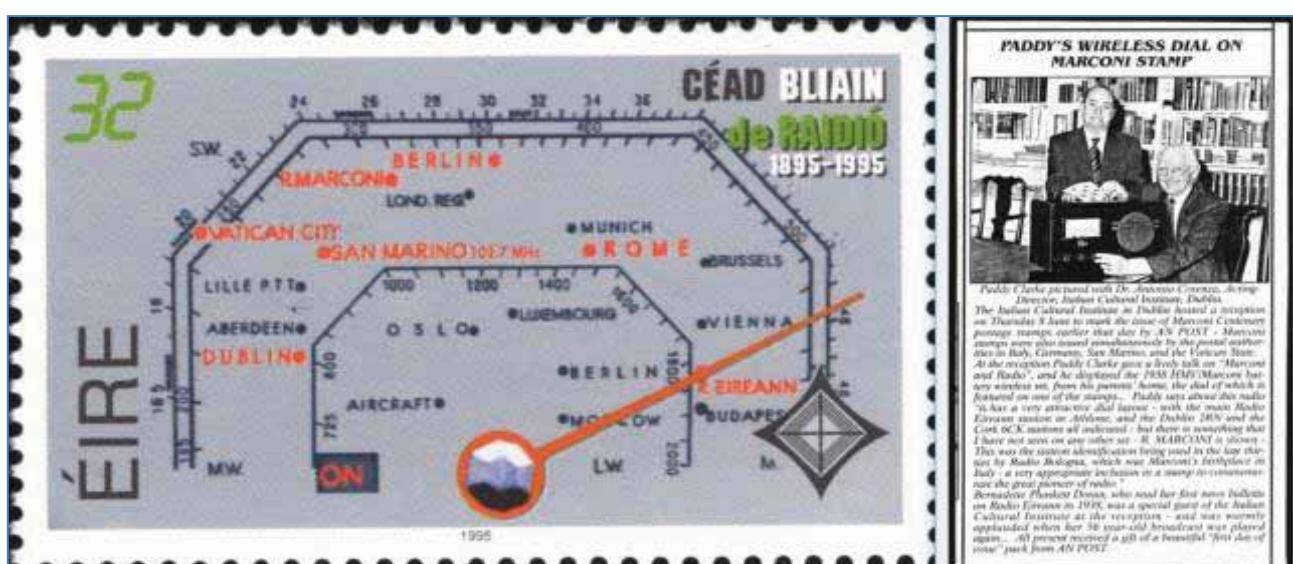
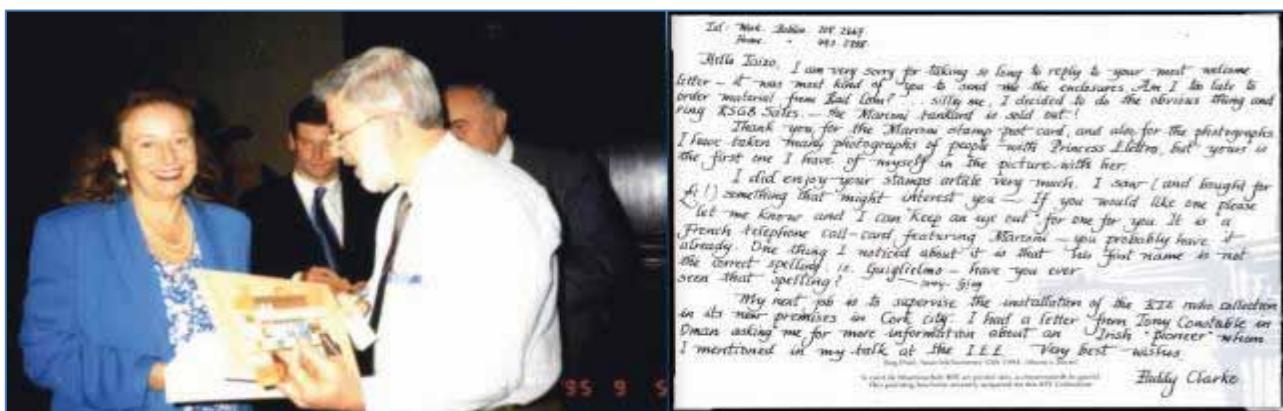
2. アイルランド：無線100年記念 マルコニー切手2種 (1995年6月8日発行)

話をマルコニー切手に戻して、今回は先ずアイルランドの切手を紹介します。アイルランドはマルコニーのお母さんの出身地です。2種連刷切手の左側は、HMV/Marconiの1938年製電池式ラジオのダイアルだそうです(詳細後述)。右側は、マルコニーのお馴染みのポーズが描かれた、イタリアの切手(前号で紹介)と共に通図案です(写真4)。



3. アイルランドのMr. Paddy Clarkeからの手紙 (1995年12月11日)

4月号の初回で既述のロンドンでの「無線100年コンファレンス」で会った、アイルランドのパディさんに、エレットラ・マルコニーさんとの写真を送ってあげたところ、上述のアイルランド切手や新聞記事のコピーと共に、丁寧な礼状が送られてきました。新聞記事には、パディさんが、ダブリンのイタリア文化協会のDr. Antonio Cosenzaと、切手の図案に使われたHMV/Marconiの1938年製電池式ラジオ(パディさんが両親の家から持ってきた)を前に撮られた写真が掲載されていて、記念切手発行のレセプションでパディさんが、「マルコニーとラジオ」についての好意的な講演をしたと報じられています(写真5及び6)。



4. ドイツ：無線100年記念 マルコニー切手1種（1995年6月8日発行）

ドイツでも同じ目的で、イタリアやアイルランドの切手と共に图案の記念切手1種が発行されました（写真7）。



写真7（左）無線100年記念切手1種と、（右）その初日カバー。

5. ドイツ：無線100年記念 マルコニー切手を貼った実通2通（1995年7月8日及び9月11日）

筆者が郵趣家であることを知つていてくれた、当時ドイツ在住のJA1IST(DJ2AA)名黒さんと、JAIGのメンバーであるDG3IAD(7J1AOS) Axel Schwabさんが、マルコニーの切手を貼った封筒で、記念切手を送ってくれました（写真8）。



写真8 無線100年記念切手を貼った実通2通。

6. ドイツ：無線100年記念 マルコニー切手の初日カードと、小型シート（1995年6月8日発行）

ドイツの郵便局の発行の初日カードは、縦21cm、横15cmのカードの両面に印刷されたもので、表にはマルコニーの切手を貼ってBONN局の初日記念消印が押され、裏には記念切手の説明が書かれています（写真9）。



写真9（左）無線100年記念切手の初日カードの表と裏。（右）無線100年記念切手の小型シート。

（訂正）先月号の「4. イタリア：マルコニーが…」を、「4. イタリア/フランス：マルコニーが…」と訂正下さい。テレフォンカードはフランスのものでした。



JA3AER



*** マルコーニの切手 (その5) ***

JA3AER 荒川泰蔵



1. 米国のARRLから会員歴40年の記念バッジが届きました。

去る7月上旬、米国から小さなパッケージが届き開けてみると会員歴**40年**のバッジが入っていました。今年の10月に80歳を迎える私にとって、その人生の半分もARRLのメンバーだったのかと感無量でした。JARLからは8年前に会員歴**50年**の表彰状を頂き、米国のQCWAからは、昨年アマチュア無線歴**60年**アワードを頂きました。私も歳をとったものです(写真1)。



写真1 左からARRLの会員歴**40年**のバッジ、JARLの会員歴**50年**の表彰状、QCWAのアマチュア無線歴**60年**のアワード。

2. イタリアのIZ1KVQ, Francescoさんから、マルコーニの参考書を頂きました。

去る6月下旬、大阪狭山ラジオクラブの無線室にIZ1KVQ, Francescoさんが訪ねて来られ、マルコーニの生誕地の近く(Genova)にお住まいとかで、マルコーニの切手を見せるときばれ話に花が咲きました。たまたま持つておられたイタリア語の本にも、マルコーニの記述があるのでと置いて行かれました。既に持っていた2冊の参考書と共に今後活用したいと思います(写真2)。



写真2 参考書3冊、左から「Mondo Senza Fili」、「グリエルモ・マルコーニ」、「In Marconi's Footsteps Early Radio」。

3. チェコスロバキア：無線通信分野の発明家6種の内のマルコーニの切手1種（1959年12月7日発行）

話をマルコーニの切手に戻して、今回は先ずチェコスロバキアの切手を紹介します。筆者のコレクションでは最も古いマルコーニの切手です。この切手は無線通信分野の科学者/発明家のシリーズとして発行された6種の内の1種で、この60hのマルコーニの他は、25hにテスラ、30hにポポフ、35hにブランリー、1Kcsにヘルツ、2Kcsにアームストロングを描いています（写真3）。



写真3 (左) マルコーニの切手。(右) その切手を含む3種を貼った初日実通カバー。

4. 米国：エレクトロニクスの発達シリーズ切手4種の内のマルコーニ切手1種（1973年7月10日発行）

エレクトロニクスの発達を題材に発行された4種の切手の内の1種で、図案にマルコーニのインダクション・コイルとスパーク・ギャップが描かれています。他の3種の切手は、8¢に、トランジスターを含むプリント基板、11¢に、デ・フォレーストの2極真空管、15¢に、マイクロフォン、スピーカー、真空管、TV撮像管が描かれています（写真4）。

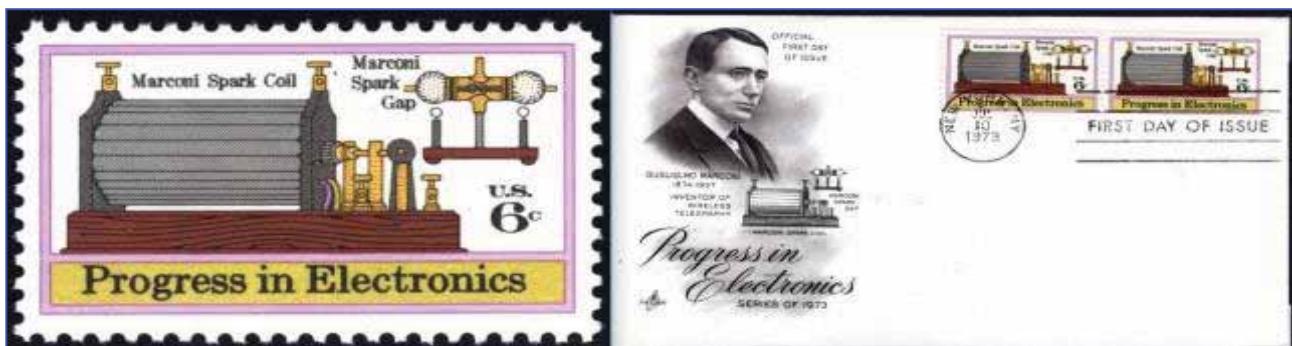


写真4 (左) マルコーニのインダクション・コイルとスパーク・ギャップを描いた切手。(右) その切手の初日カバー。

5. 英国：ブリストル海峡横断無線通信75年記念切手（1972年9月13日発行）

このブリストル海峡横断無線通信75周年記念切手は、BBC放送50周年記念切手3種と同時に発行されました。図案はインダクション・コイルとスパーク・ギャップで、Marconi/Kemp experiments 1897と記されています（写真5）。



写真5 (左) ブリストル海峡横断無線通信75周年記念切手。(右) 同時に発行されたBBC放送50周年記念切手とのFDC。

6. カナダ：マルコーニ生誕100年記念 マルコーニ切手1種 (1974年11月15日発行)

マルコーニ生誕100年の1974年には、多くの国でマルコーニの切手が発行されました。その(3)でイタリアのマルコーニ生誕100年記念切手を紹介させて頂きましたが、このカナダの切手もそれを記念したものです。マルコーニが英国からカナダのニュー・ファウンドランドへの太平洋横断無線送信を成功させたのは1901年の事でした。この切手の図案は、見慣れた若いマルコーニの肖像と共に、ニュー・ファウンドランドの受信所があったと思われる、シグナル・ヒルから見下ろすセント・ジョンズの町をイラスト風に描いています(写真6及び7)。



写真6 (左) マルコーニ生誕100年記念切手。(右) その切手の初日カバー。

Marconi

As part of its bicentennial series the Post Office will commemorate the centenary of the birth of Guglielmo Marconi, father of the radio. The stamp will recognize the contributions of all Italians to the development of Canada.

Marconi was born at Bologna on April 25, 1874, the son of an Italian lawyer and an Irish mother. Young Guglielmo's educational career was not spectacular. He played hooky from his tutor and failed to qualify for both the Italian Naval Academy and the University of Bologna. However, he has always enjoyed dismantling things to see how they worked and, while still a boy, had already built a primitive laboratory. He acquired a solid grounding in physics, chemistry and electricity. Marconi's scientific progress was not helped by his father, who believing his son was wasting time, smashed every unhidden piece of the boy's scientific equipment.

In 1891 Marconi read the theories of Heinrich Hertz, an experimenter with electromagnetic waves. Marconi immediately decided that these waves could be adapted to carry telegraphic messages and that he would prove it. His only problem was that, in his own words, "the idea was an element so simple in logic, that it seemed to me that it must have been known for a long time before I started it into practice." Marconi worked from 1894 to 1896 with the indomitable patience and determination typical of him and he increased the range of his signal to over a mile.

After having been refused the support of the Italian government, Marconi moved to England where he was accepted and encouraged by William Preece, Director General of the British Post Office. Preece gave him continuous grants in Monckton Hall, the first message was beamed across the English Channel. This success galvanized up the dream of spanning the Atlantic.

Marconi had problems convincing his backers to finance this project especially since many top-notch scientists suspected that radio waves could not travel in straight lines and would be blocked at the horizon. Marconi, however, was more determined to prove his original scientific opinion and he felt that all he needed was a more powerful transmitter and a more sensitive receiver to get over the one hundred and fifty miles high obstacle of water between Europe and America. In 1901 he sent a team to the U.S. to build a transmitter at Coco Codd in Massachusetts for the receiver but when the elaborate aerials at both locations collapsed, he decided to make do with a weaker system. He compensated for this by using the receiver in Newfoundland, the port of North America. Marconi's first transatlantic message was sent on December 12, 1901.

The invention, tested at St. John's on December 6, 1901. The authorities allowed him to use some abandoned military buildings on Signal Hill overlooking the harbor. Nearby was a memorial to Giovanni Caboto, or John Cabot as he is better known, another Italian whose name is linked with Canada. By Wednesday December 12, 1901, Marconi had set up his equipment and had the receiver set down to listen for the pre-arranged signal, three dots of the Morse letter S. It had been chosen because dots used less energy than dashes, and it was believed they would be easier to pick out against a dark sky background. Just before the wind took over again, and the sky became bright, Marconi finally heard a few low, distinct tones from Europe. Marconi faintly heard a few of the dots being generated 1700 miles away.

The remainder of the day in Newfoundland was inevitably anticlimactic. Radio reception was always poor and even running an aerial from the west of Signal Hill to an iceberg grounded in the harbour didn't help. What saved one of the great scientific research projects was the arrival of a new electrical company, the discovery of modern lines¹, but a telegraph company which monopolized communications within Newfoundland was uninterested and threatened to sue if the experiments did not cease. Marconi was forced to give up his work and had to seek a public demonstration to gain massive recognition.

The stamp in honour of Guglielmo Marconi was designed by John B. Boyle. The positive in airbrush combines a portrait of Marconi with a view of St. John's harbor from Signal Hill.

Specifications

Please read carefully before completing order form.

Stamp: Marconi

Denomination: 8¢

Date of Issue: 15 November 1974

Design: John B. Boyle

Printer: Ashton-Potter Limited

Quantity: 28,000,000

Dimensions: 36 mm x 30 mm (horizontal)

Perforation: 13.5 and 13

Gum Type: PVA

Paper Type: Coated-one-side lithography

Printing Process: 4 colour lithography

Pane Layout: 50 stamps

Plate Inscription: In the side margins facing in at the four corners
"Ashton-Potter Limited, Toronto"
Design: John B. Boyle; Design

Tagging: All general tagged

Collector's Own First Day Covers: Customers should forward their own self-addressed covers to:
Philatelic Service
Canada Post
Ottawa, Canada
K1A 0B5

to arrive no later than 15 November 1974. A service fee of 15¢ will be charged for each cover to be affixed with less than 50¢ postage. Those customers affixing their own stamps and submitting them on day of issue for official "First Day of Issue" cancellation will be charged a fee of 10¢ for each cover so cancelled.

Official First Day Covers may be purchased by completing and forwarding the attached order form for First Day Covers with a covering remittance to the address indicated.

To Customer: Remit by Postal Money Order or Cheque payable to the Receiver General for Canada, U.S. Customs please allow for current exchange rate. The order forms will be returned to you with your stamps and in case of discrepancies must be enclosed with your correspondence.

Collector's Subscription Service: Holders of Collector's Subscription Service Accounts (Deposit Account) have no need to use these forms except for purchases over and above their standing order.

An opening deposit of \$20.00 provides automatic receipt of your personal requirements of philatelic quality postage stamps and related products regularly. This eliminates the necessity of placing separate orders, each with a cheque, draft or money order, for every new issue.

For more information and an application form, just check the box on the next page and send the address coupon to the Philatelic Service.

写真7 マルコーニ生誕100年記念切手の公式発行案内書。表は英語、裏はフランス語。

次号では、 その他の国々で発行されたマルコーニ生誕100年記念切手を紹介させて頂きます。



JA3AER



* * * マルコニーの切手 (その6) * * *

J A 3 A E R 荒川泰藏



1. ミクロネシアのTA島からQRVされたV6Jチームからの絵葉書。

去る7月、JJ3CIG, JP3AYQ眞田さんご夫妻とJA3FGJ平林さんの3名が、ミクロネシアの孤島Ta島へIOTAペディションに出かけられた経由地の、グアム島とミクロネシアのポンペイから差し出してくれた絵葉書を受け取りましたので、ここに紹介させて頂きます(写真1及び2)。絵葉書はそれぞれの地域の風景写真です。

このIOTAペディションの様子は、眞田さんが概要を先月号に紹介され、去る8月12日のNDXA-BBQ大会で、平林さんの写真によるプレゼンテーションなどで、ご苦労をうかがい知ることが出来ました。また、8月25日の東京ハムフェアでのJIDXNでも、青木さんの司会で、眞田さんと平林さんのスライドによるプレゼンテーションが行われ、その全容を知ることが出来ました。

Ta島(OC-254)のV6Jとは、7月19日に14MHzのSSBで、また7月26日には14MHzと18MHzのFT-8でQSOさせて頂きました。私のFT-8は6月21日に移動局の50Wで免許になり、7月8日から試験運用を始めたばかりでしたが、V6Jの運用の間に合ったのはラッキーでした。

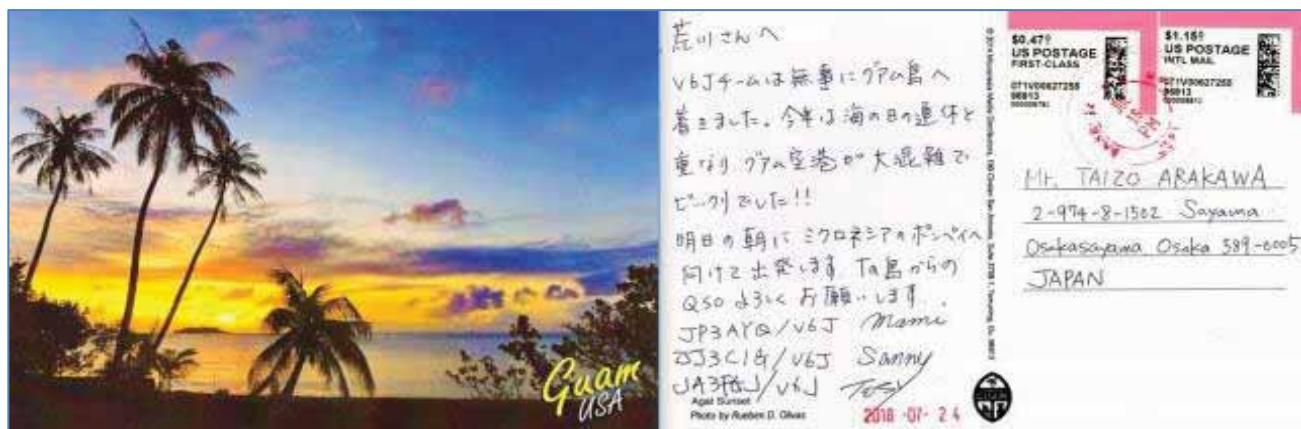


写真1 米国のメータースタンプ2枚を貼り、7月16日付の消印が押されている。残念ながら地名(郵便局名)は消印が不鮮明で読み取れないが、メータースタンプのZip Codeは96913である。到着は7月24日で8日間と、比較的早く届いた。



写真2 ミクロネシアのカラフルな切手3枚(左から、緑海亀、ボックス・クラゲ、ミクロネシアのハイビスカス)が貼られ、7月17日付の消印がある。局名は読み取れないがZip Codeは96941である。到着は8月5日で19日間で届いた。

2. ブラジル：マルコーニ生誕100年記念切手1種（1974年4月25日発行-誕生日）

話をマルコーニの切手に戻します。マルコーニの誕生日は4月25日ですが、このブラジルの切手は100年後の同日に発行されました。既に(その3)で紹介したイタリアの切手2種は前日の4月24日に、先月号の(その5)で紹介したカナダの切手1種はずっと遅れて11月15日の発行でした。今回は私のコレクションにある「マルコーニ生誕100年記念」の切手を、4月、5月、6月、7月、8月と発行月順に紹介します。



このマルコーニ生誕100年記念切手には、ブラジルを象徴するリオネジャネイロの巨大なコルコバードのキリスト像が描かれています。その背後に一筋の光とマルコーニの肖像がシルエットで、そして下の方には、ブラジルとイタリアの国旗を象徴するカラーリボンが描かれています（写真3）。

← 写真3 マルコーニ生誕100年記念切手1種。

3. モナコ：マルコーニ生誕100年記念切手1種（1974年5月8日発行）

このモナコが発行したマルコーニ生誕100年記念切手には、マルコーニの肖像とともに、初期の無線送信機と受信機の回路図を描いたノートが図案化されています。



背景には海を航行する2隻の大型船が描かれていますが、マルコーニの無線通信実験にも使われたと言われるイタリア海軍の軍艦カルロ・アルベルト号かと思われます（写真4）。

← 写真4 マルコーニ生誕100年記念切手1種。

4. コロンビア：マルコーニ生誕100年記念切手1種（1975年6月2日発行）

このコロンビアが発行したマルコーニ生誕100年記念切手の発行は6月でも、生誕100年目の1974年ではなく、翌年の1975年の発行です。



切手には「生誕100年」とか、「1874-1974」とかの表示がありませんので、マルコーニ生誕100年記念切手ではないかも知れませんが、米国のスコットカタログは生誕100年記念切手として扱っています。発行を準備する段階で何らかの理由で遅れて、生誕100年を意味する表示を外したのかも知れません。マルコーニの横顔が描かれ、その背後に月夜に航行する船（マルコーニの通信実験船エレットラ号と思われる）が描かれています（写真5）。

← 写真5 マルコーニ生誕100年記念切手1種。

5. ニジェール：マルコーニ生誕100年記念切手1種（1974年7月1日発行）。

このニジェールが発行したマルコーニ生誕100年記念切手には、マルコーニの肖像と共に、マルコーニの通信実験船エレットラ号と思われる船や、SYDNEYとシドニーの地名を入れたオーストラリアの地図が描かれています。



Wikipediaのグリエルモ・マルコーニのページに、1923年に短波が反射鏡によるビーム化に適することを突き止め、ボルデューに送信局2YTを作り、エレットラ号で西アフリカのカーボベルデに向け実験航海に出て2YTの信号を受信した旨、更に1924年にはオーストラリアで2YTの信号を受信した旨の記述があります。

← 写真6 マルコーニ生誕100年記念切手1種。

6. ニジェール：マルコニー生誕100年記念切手のプルーフ(試刷り)。

これは、前項で紹介したニジェールのマルコニー生誕100年記念切手のプルーフです。無目打ちの小型シートの様にも見えますが、郵便切手として使用する目的ではなく、試し刷りをしたもので（写真7）。このようなマテリアルは郵趣品として、切手作品に使用することもありますので、ここに紹介しておきます。

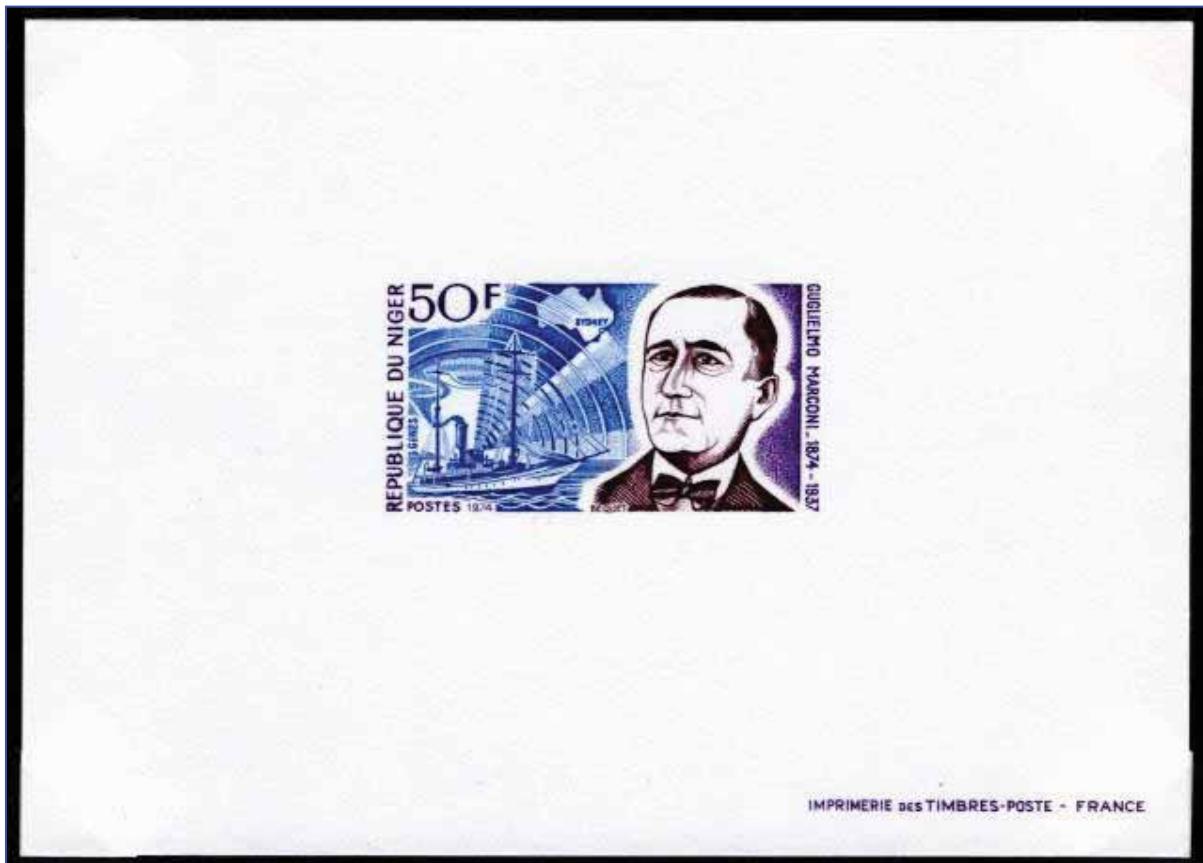


写真7 マルコニー生誕100年記念切手のプルーフ(試刷り)。

7. ルワンダ：マルコニー生誕100年記念切手6種 (1974年8月19日発行)

ルワンダではマルコニー生誕100年を記念して6種の切手を発行しました。20c切手には変調波形とマルコニーの無線通信実験船エレットラ号が、30c切手にはマルコニーの肖像とマルコニーの無線実験にも使われたイタリアの軍艦カルロ・アルベルト号が、50c切手には初期の無線実験機器と通信衛星が、4F切手にはマルコニーの肖像と世界地図に波形が、35F切手には初期の真空管式通信機とタワーやパラボラアンテナが、60Fにはポルデューの無線局とマルコニーの肖像が描かれています（写真8）。



写真8 マルコニー生誕100年記念切手6種。



J A 3 A E R



* * * マルコーニの切手 (その 7) * * *

J A 3 A E R 荒川泰藏



1. 英国：無線 100 年記念 マルコーニの切手 2 種 (1995 年 9 月 5 日発行)

前回(その6)では、「マルコーニ生誕100年記念」の切手を紹介しましたが、今回は「無線100年記念」の切手を紹介します(写真1)。この英国の切手2種は、既に(その1)及び(その2)で紹介し、毎号のタイトルの図案にも使ってていますのでお馴染みの切手ですし、その前後に発行された無線100年記念の切手も既に(その3)及び(その4)で紹介しましたが、残されたその他の「無線100年記念」の切手を調べて見ますと、発行年が1995年だけではなく1996年のものもあることに気づき、単に切手を発行する郵便局の事情だけでなく、何を基準に無線が開始されたとしているかの違いと考えて調べてみました。ウイキペディアには、「当初、マルコーニも限られた距離でしか信号を送れなかった。1895年夏、彼は実験の場を屋外に移した。送信機と受信機のアンテナを長くし、それらを垂直に配置して、一端を接地させると通信距離が大幅に伸びた。間もなく彼は丘を越えての信号伝達に成功した。距離は約1.5 kmになっていた。」との記述がありますので、1995年に発行されたこれらの切手は、ここを基準にしたものでしょう。



した。距離は約
1.5 kmになっ
ていた。」との記述
がありますので、
1995年に発行
されたこれらの切
手は、ここを基準
にしたものでしょ
う。

← 写真 1 無線
100 年記念切手
2 種。

2. ブラジル：無線 100 年記念 マルコーニの切手 1 種 (1995 年 5 月 5 日発行)

英国より先に、ブラジルで発行されたこの切手には、イタリアの国旗を背景に、マルコーニの肖像画と鉱石ラジオ、それに AM 変調波が図案として描かれています。また、初日カバー(FDC)の記念消印にもマルコーニの肖像が描かれています(写真2)。



写真 2 (左) 無線 100 年記念切手 1 種と、(右) その初日カバー(FDC)。

3. ピトケアン諸島：無線 100 年記念 マルコニーの切手 1 種 (1995 年 9 月 5 日発行)



英国と同じ日に発行されたピトケアン諸島の切手には、見慣れたマルコニーの肖像とシーンではなく、1901 年当時と思われる、通信機を操作しているマルコニーが描かれています。スパークコイル以外に、モールス通信用の電鍵や印字機等が描かれています(写真 3)。

← 写真 3 無線 100 年記念切手 1 種。

4. ルーマニア：無線 100 年記念 マルコニーの切手付き封筒 1 種 (1995 年 10 月発行)

無線 100 年を記念して発行された切手付き封筒には、懐かしいラジオ受信機とマルコニーの肖像が描かれています(写真 4)。



写真 4 無線 100 年記念切手付き封筒・実逓(オラデア 1996.5.1 発→ブカレスト 1996.5.3 着)。

5. ウオリス・フツナ：無線 100 年記念 マルコニー切手 1 種 (1996 年 6 月 25 日発行)



このウォリス・フツナの切手には、マルコニーの肖像と共に、初期の無線送信機と受信機が描かれています(写真 5)。発行が 1996 年であるのは、ウイキペディアに、「渡英直後よりマルコニーはヘルツのように、非接地型のパラボラ反射鏡アンテナを試しあげた。」

1896 年 7 月 27 日、郵政庁 GPO と貯蓄銀行の屋上間でデモンストレーションを行った。』とあるこの公開実験が基点かも知れません。

← 写真 5 無線 100 年記念切手 1 種。

6. ソロモン諸島：無線 100 年記念 マルコニー切手 4 種 (1996 年 2 月 28 日発行)



このソロモン諸島の4種の内の一つ、\$ 1.05切手(写真6の上左端)には、**1896年**9月2日に、ソールズベリー平原での公開実験の様子が描かれています。また \$ 1.45切手(写真6の上右端)には、マルコニーが1933-4年の世界旅行中に日本を訪問した時、畠の部屋での食事で、芸者にお酒を注いでもらっている場面が描かれています。ソールズベリー平原のスケッチは、英国の画家 Steven Spurrier が描いたものだそうで、1985年のRSGBのクリスマスカードの表紙にも使われていました(写真6の下)。

写真 6 (上) 無線 100 年記念切手 4 種。(下) RSGB から届いた 1995 年のクリスマスカードの表紙。

7. スリナム：無線 100 年記念 マルコニーの切手 2 種 (1996 年 5 月 17 日発行)



このスリナムの 2 種の切手の内、低額面切手(写真 7 の左)には、前項のクリスマスカードにあるスケッチ画の、ソールズベリー平原での公開実験で使われたマルコニーの送信機とアンテナが単色で描かれています。また高額面切手(写真 7 の右)には、世界地図を背景に、マルコニーのお馴染みのポーズが楕円形の中にデザインされていて、世界を視野に考えているマルコニーの姿を現しているように見えます。

← 写真 7 無線 100 年記念切手 2 種。

8. エストニア：無線 100 年記念 マルコニー切手 1 種 (1996 年 6 月 27 日発行)



このエストニアの切手には、マルコニーの初期の通信機を背景に薄く描き、その前面に大きくマルコニーの肖像を描いています(写真 8)。

← 写真 8 無線 100 年記念切手 1 種。



J A 3 A E R



* * * マルコーニの切手 (その 8 最終回) * * *

J A 3 A E R 荒川泰藏



1. SEANET コンベンション 2018 in Yogyakarta, Indonesia に参加してきました。

去る 10 月 18 日から 4 日間、インドネシアのジョグジャカルタで開かれた、第 46 回 SEANET コンベンションに参加してきました。主催するインドネシアの無線連盟 ORARI は、東京ハムフェアにブースを出し、ORARI 創立 50 周年記念切手セットの頒布や、コンベンションの PR と共に参加者の受付を行なうなど力を入れていただけあって、12 ケ国からの参加者約 100 名中、日本からの参加者は 19 名、海外在住の日本人参加者を含めると 24 名と主催国に次いで最多でした(写真 1 及び 2)。尚、詳細については FB ニュース 11 月 15 日発行号と CQ 誌 12 月号に投稿しますので、公開/発行されましたら是非ご覧ください。

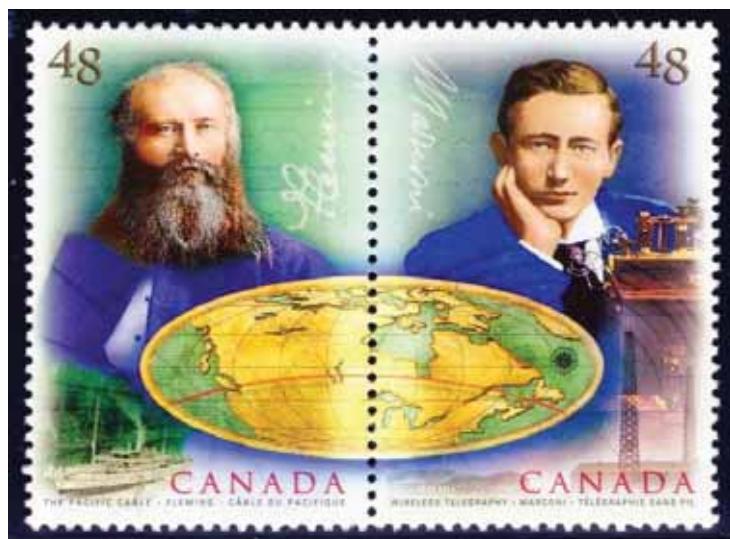


写真 1. 10 月 19 日の晩餐会の後で 3 班に分かれて撮影した記念写真の 1 枚。



写真 2. 10 月 20 日、パトカーが先導する 2 台のバスに分乗して出かけたメラピー火山見学時、避難用シェルター前での記念写真。

2. カナダ：通信技術 100 年記念 サンドフォード・フレミングとマルコーニの連刷切手（2002 年 10 月 31 日発行）



さて。マルコーニの切手の話に戻します。前回までは、「マルコーニ生誕100年記念」と「無線100年記念」の切手を中心に紹介してきましたが、今回は私のコレクションにあるその他の切手を紹介します。

先ず、最初はカナダの「通信技術100年記念」切手です(写真1)。この切手は連刷で、サンドフォード・フレミングとマルコーニがそれぞれ描かれています。マルコーニについてはもう説明の必要がないと思いますが、サンドフォード・フレミング(1827-1915)は英国のスコットランド生まれで、カナダに移住した土木技師であり、電信工作者で、世界標準時を提唱したことでも知られています。

← 写真3 無線技術100年記念連刷切手。

3.セルビア・モンテネグロ：モルジカ・バル電信局100年記念1種（2004年8月3日発行）



現在ではセルビアとモンテネグロはそれぞれ 独立した国ですが、2003年から2006年にかけてはセルビア・モンテネグロの国名で切手を発行しています。この切手は現在のモンテネグロの、地中海につながるアドリア海に面し、対岸はイタリアのモルジカ・バルにある電信局の100周年を記念した切手です(写真4)。ヘッドフォンを付けたマルコーニの肖像と、海岸にある電信局のアンテナから電波が出ている様子が描かれています。

← 写真4 モルジカ・バル電信局100年記念切手。

4.アルゼンチンROWING社：無線100年記念のマルコーニ切手4種（1999年6月10日発行）

これはアルゼンチンの民間郵便会社と思われるROWING社が発行したマルコーニの無線100年記念切手です(写真5)。



写真5 無線100年記念のマルコーニ切手のFDC。

5. 英国：ワイト島の初常設無線局 100 年記念コイン（1997 年 12 月 6 日発行）

切手ではありませんが、1901 年に無線通信による大西洋横断を成し遂げた、ワイト島の常設無線局 100 年記念コインが発行され、それをはめ込んだプレゼン用の 3 折りフォルダーの裏表です（写真 6）。コインにはマルコーニの肖像が描かれています。

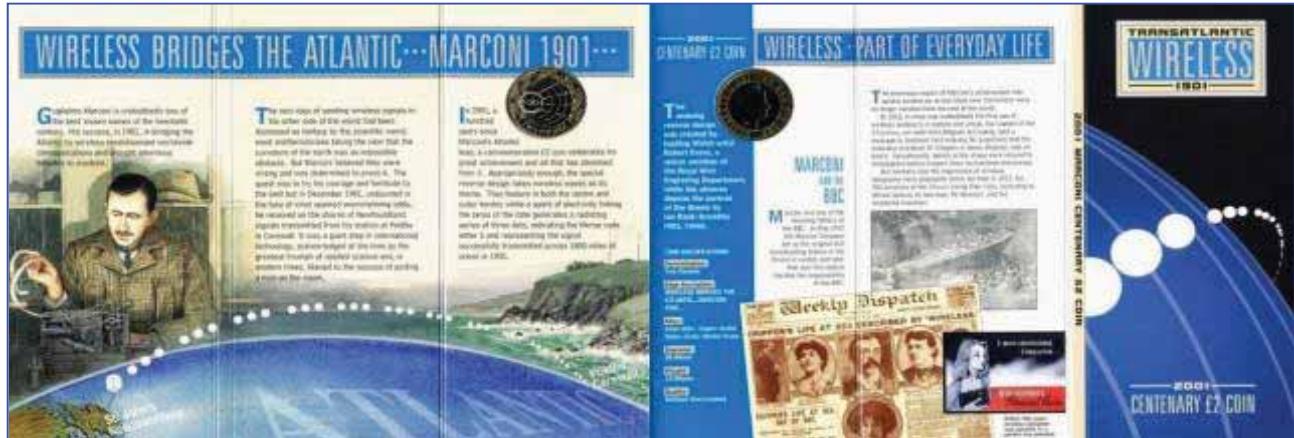


写真 6 ワイト島の初常設無線局 100 年記念コインのフォルダー。

6. 英国：ワイト島の初常設無線局 100 年記念絵葉書（1997 年 12 月 6 日発行）



上記コインと同日に発行された、ワイト島の初常設無線局 100 年記念絵葉書です。右側にマルコーニのお馴染みの肖像画、左上には、常設無線局 が設置された The Royal Needles Hotel が描かれています。左下はその跡地に作られた公園にある石碑に刻まれた碑文です（写真 7）。

← 写真 7 常設無線局 100 年記念絵葉書。

7. 英国 のワイト島にあるマルコーニゆかりの地を訪問（1996）

今から 22 年も前のことですが、英国に駐在中に休暇でワイト島のマルコーニゆかりの地を訪問しましたので、その時の写真を紹介します（写真 8 及び 9）。ウェールズからイングランドのサザンプトン迄ドライブし、フェリーでワイト島に渡りました。

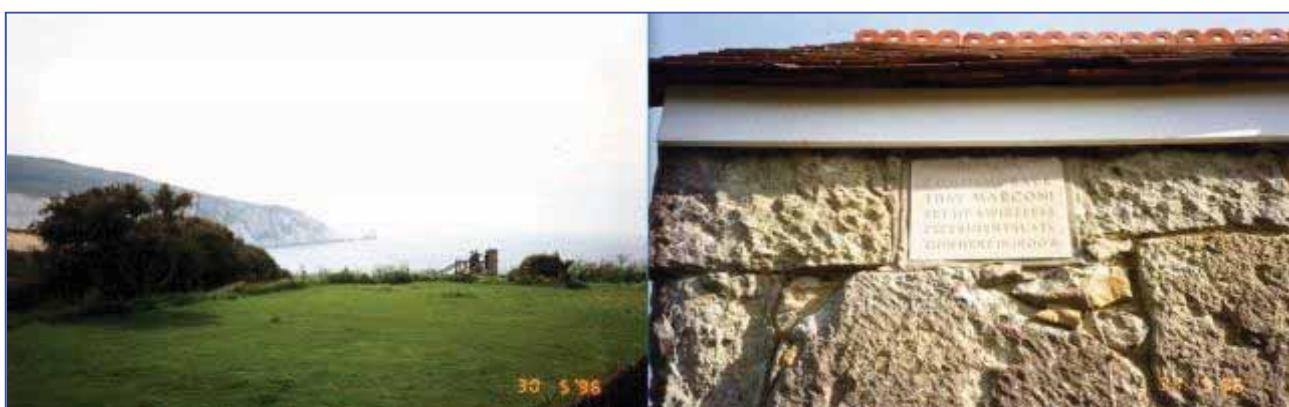


写真 8 (左) The Needles と呼ばれる半島を望む場所。(右) 1990 年に無線通信の実験をしたとされる記念の小屋。



写真 9 (左) 遊園地になっていたが、マルコーニの無線電信局があった場所の記念碑。(中) その記念碑の四方に刻まれている碑文の一つで
1897年12月6日から1990年5月26日までここニードルズの無線電信局で、マルコーニが無線通信を行ったことが記されている。
(右) ワイト島の私設無線博物館に飾られた、マルコーニの初期の無線通信実験に使われた機器のレプリカ。

8. 米国のかーپコッドにあるマルコーニゆかりの地を訪問（1982）

今から33年も前のことですが、米国に駐在中に休暇でマサチューセッツ州のかーپコッドに出かけ、マルコーニにゆかりのある場所を訪問した時の写真を紹介します(写真10)。ボストンの南東で大西洋に突き出したかーپコッドですが、住んでいたニュージャージー州から車でニューヨーク州、コネチカット州、ロードアイランド州を越え、マサチューセッツ州までの、長距離ドライブでした。



写真 10 (左) カーپコッド国有海岸にあるマルコーニ無線局エリアの大きなサイン。**(中)** マルコーニの無線局があった場所には、マルコーニの顔の彫刻が記念碑として立っていた。ここにはアンテナ用の木塔(鉄塔ではない)やステーの基台、碍子のかけらなどが残っていた。大西洋を望むこの地から英国と無線通信を行っていたようだ。**(下)** その近くの私設無線博物館に飾られた、タイタニック号の無線室のレプリカ。

完